

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201507		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき神戸伊川谷		
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬282番地		
自己評価作成日	平成22 年 7 月 6 日	評価結果市町村受理日	平成22年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hvogo.jp/kai-gosi-p/informationPublic.do?JCD=2875201507&SQD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14—703号
訪問調査日	平成22年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・掲示板の利用を利用し、行事案内や介護保険関係の情報の発信、ボランティアによる写真の掲示などを行い交流の場を作っている
・ケアプラン作成時家族様にはカンファレンスから参加して頂き、一緒にプラン作成に関わって頂いている
・スタッフの挨拶、笑顔
・スタッフによるエステサロンの実施

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域交流の工夫の一つとして、玄関前に掲示板を設置し、継続的に近隣の方々に情報提供をしている(ホーム開催行事へのお誘い・介護保険情報・介護相談室の案内等)。家族との交流に関しても、毎年恒例となった家族と一緒に掛ける日帰り旅行の他、ホーム行事への積極的な参加を含め、ホーム内には、家族が撮影した写真も展示がされており、家族の協力体制が良いことが感じられる。利用者自身が出来る限り、地域に出掛け交流機会を設けられるように積極的に支援している(買い物・ふれあいサロン・地域行事等々)。ホーム内での楽しみごと(ドッグセラピー・エステサロン・ボランティアの導入等)への支援も多彩である。食事は、食の安全に配慮した、美味しい米や野菜、新鮮な魚等の材料を近隣の商店で購入し、全食手づくりの家庭的な食事が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念の唱和を行い、研修も行っている。日常的なミーティングの中でも話し合い、実施につなげている	事業所理念「安心・安全・愛・そして輪」をケアの中で具現化できるように、職員が年間方針を策定している。朝の申し送り時は今日の個人目標を、夕の申し送り時は、個人目標の達成度を発表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や地域交流のバザーや夏祭りの実施、挨拶など	散歩や買い物時に、近隣の方に挨拶をしている。スーパーのリサイクル活動や自治会の廃品回収に協力している。近隣の方は、気軽にホームの夏祭りに参加して頂いたり、犬の散歩時に立ち寄って頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの養成講座を地域住民に向けて定期的に開催している。事業所に於いて、介護相談室を開いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での要望や意見を全体会議やミーティングで話し合い、取り入れてサービスの質の向上に活かしている(家族会のもち方や環境整備・外出行事)	全家族に会議の案内をしている。会議では、日帰り旅行先の相談や、家族アンケートの実施方法について、検討している。災害時の応援体制について話し合い、地域の方と民生委員の協力が得られることとなった。	災害時の利用者救出に向けて、消防署職員をオブザーバーとして、参加のお願いをしたら如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	西区グループホーム連絡会や2ヶ月に1度の運営推進会議で施設の取り組みの報告や問題点への助言を仰いでいる	西区主催で、2ヶ月に1回開催されるグループホーム連絡会(19事業所)にあんしんすこやか係の担当者に参加して頂き、助言や指導を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組めている。また、定期的に勉強会を行い拘束について話し合っている	「権利擁護委員会」の担当職員が、身体拘束の勉強会を主催し、行動制限がないように努めている。他ホームの事例を提供してもらい、職員の気づきを促す研修を実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、虐待への防止は十分努めている	法人が高齢者虐待防止に向けて力を注ぎ、事例を提供をしてケアの振り返りの機会となるよう全体研修・内部研修を実施している。職員が一人でストレスをかかえないようにチームケアを実践している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を設けている。現在必要のある方はいないが、必要に応じて活用できるよう準備は行っている	制度の概要については、研修済みであるが、今後の内部研修計画に位置づけている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話し合いの場を設け、相互理解が出来ている	見学時や自宅への訪問時(面談)を利用して、契約内容やケアについての疑問点については納得して頂けるように話し合う機会を設けている。終末期の指針についても説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時に家族様からの意見を頂き反映させている。また、家族会やアンケート調査を行いケアに反映させて頂いている。意見や要望は運営推進会議に於いて報告を行っている	家族の訪問時や家族会で意見を訊いている。家族アンケートを実施して、家族同行の日帰り旅行先(神戸花鳥園)を決定している。毎日の献立は、利用者の意見を取り入れている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議に於いて、職員の提案や意見を聞く場を設けている。希望や要望に対しても検討し、運営に活かせるように対応している	毎月の職員会議や年4回の職員個人面談を実施して職員の意見を聞く機会を設けている(職員の提案により本人と関わる時間を多く持つために、シーツ等大きな洗濯はクリーニング店に出すことになった等)。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課を行い、必要に応じ職員にフィードバックし、目標の達成状況の相互確認や、職員の意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で階層別に、研修計画を立案し定期的に研修を行い、ホーム内ではOJTを中心とした研修も実施している。全職員を対象に、外部講師による講演会を定期的に開催することや、外部研修・勉強会の案内も行っている。また、資格取得のために必要な情報提供や、そのための勤務の調整を行い、ケアマネの対策講座や介護福祉士の実技指導等を行っている。合わせて、マイチャレンジで目標を明確にし、計画的に取得するサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会や協会に所属し交流活動を行っており、定期的な勉強会を通じ、他法人のグループホームや特養等の管理者・職員との交流を行っている。職員へ協会主催の勉強会の案内をしている。運営推進会議においては、構成員として他法人施設と相互参加に取り組んでいる。隣接して運営している事業所へケアマネージャーの皆さんが訪問下さる機会も多く、地域の情報を得る機会も多い。また、同業他社との相互見学を行うなど、悩みの解消等や自己啓発に役立っている。		

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様とコミュニケーションをとり、また、ご家族様からの情報からご本人様にあったサービスを提案し、安心を確保できるよう努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族様の考えや希望を聞き、スムーズに入居が行えるように話し合っている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後2週間で暫定のケアプランを作成し、家族様・ご本人様と話し合いサービスを提供している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が出来る事、したい事を見極め支援出来るように努めている。施設理念に掲げ努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会などで施設の方針を説明し、共に協力する体制を築けるよう努めている	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた美容院の利用や知人・友人との連絡のお手伝いをしている	友人や家族への電話や手紙を頂いた友人へのお礼状の送付の支援をしている。近隣の美容室・クリーニング店・スーパー・近隣商店・移動パン業者等とも馴染みになっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や日常リハビリ・レクリエーションなどを通してお互いの関わり合いを作れるように支援している。入居者様同士で会話を楽しめるよう、日常的に関係作りを行っている	

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居暫くの間(3ヶ月位)ほおずき通信や季節の挨拶状など送付している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションや日々の日常の中で本人本位の思いとは何か把握し、毎月のカンファレンスで話し合っている。ケアプランの作成時には、職員側の意向にならないよう注意している	利用者と1対1で会話することを大切にしている。その言葉や行動から思いや意向を把握できるように努め、介護計画に反映している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を頂き、職員がいつでも目を通せるようになっており、確認している		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス経過を記入して、一日一日の過ごし方の変化を皆が把握できるように努めている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやミニカンファレンス会議に於いて、課題を話し合い、家族様の意向を伺いケアの計画をたてている	家族に相談しながら日々のケアの中で把握した本人の思いを介護計画に反映させている。「わたし時間の過ごし方」生活支援プランとし、利用者本位の視点でわかりやすい様式に工夫している。	より家族が介護計画についての要望を表出しやすいように、家族への聴き取りシート等を作成されたらどうでしょうか。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス経過を毎日記入し、特記事項などは職員が共有できる連絡ノートに記入し活かしている。また、モニタリング時に話し合い、計画の見直しを行っている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご希望により外食支援、エステサロンの実施。家族様と入居者様の関わりとして日帰り旅行、誕生日会の場所の提供を行っている。また、必要に応じて外部の口腔ケアの実施など取り組んでいる		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお年寄が参加されているふれあいサロンへの参加。地域スーパーでのお買い物・理美容室の利用を行っている		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	木下内科と主に連携をとり、適切な医療が受けられるように情報交換を行っている	ホームの協力医は週1回の往診体制をとっている。以前からのかかりつけ医への受診は家族に協力して頂き、生活状況の情報提供をしている。受診後は、家族より医師からの申し送りの聴き取りをしている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化がある時は、デイサービスの看護師に相談し支援出来るようにしている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①介護サマリーなどでの情報交換やお見舞いに行った時などに様子を伺っている②家族様からお話を聞く③退院に向けた話し合いに参加している④病院側へ退院後の受け入れ体制についての説明を行っている	入院時は、本人の不安を取り除くために職員がお見舞いに行っている。退院カンファレンスに家族とともに出席している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族会を利用し方針を説明している。日常的にカンファレンスに参加して頂き、状態を説明し対応を話し合っている。また、運営推進会議に於いても、要望を聞き施設側の対応についての説明を行っている	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に家族に説明している。重度化した場合は、利用者や家族、医師を含めて早期の段階から、話し合いの場を持ち、医療方針やケアのあり方を共有し、支援体制を整えている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が市民救命士の講習を受講できるように取り組んでいる。また、定期的に施設内で訓練を実施している		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度消防署員立会いのもと、訓練を行っている。また、年に1度点検業者による設備点検を行っている。消防訓練には民生員や地域住民の方にも参加頂き、災害時の協力をお願いしている	事業主体である法人の組織の中で防火管理業務組織編成表を作り、職員一人ひとりが役割を把握している。定期的に消火訓練・避難訓練を実施し、地域の方に参加してもらっている。	災害時の職員緊急連絡網を作成されたらどうでしょうか。

自己 者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設理念に掲げ、常に尊敬の気持ちで接するように努めている	年間方針に沿って、一人ひとりの尊厳を守ることが大切にしている。居室への入室時は、必ずノックと声掛けを行い、呼び方等にも配慮している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望に出来るだけ沿えるよう、気持ちを尊重出来るケアを行う。本人様に選択肢を投げかけるなどをして自己決定できる支援をする		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からコミュニケーションを通じて、1日の予定の中にお一人お一人の希望を優先している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みなどを把握出来るようにしている。エステなどでお化粧やお洒落をする事を楽しんで頂く		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃からお一人お一人出来る事・出来ない事を職員が把握して、出来る事を行って頂いている	調理から後片付け等を協働し、季節感のある美味しい食事や利用者の状態に合わせた食事を心掛けている。職員も同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分などは一日の摂取を把握し、必要に応じたものを提供している		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科や訪問口腔ケアを取り入れ、職員も口腔ケアを勉強し、入居者様の清潔維持を行っている		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、トイレの声かけを行っている。状態に合わせ、パッドやリハパン、布パンツを使い分けている	利用者全員の排泄チェック表で排泄パターンを把握し、さりげない声掛けをしている。本人の不安への対応のため、パット等を使用してもらっている。便秘については、医師の指示により対応している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足や食事による偏りをなくするため、朝食時の果物や牛乳の提供、提供食材の工夫(根菜類など)を行っている。また、毎日のラジオ体操や階段の上り下りなど、負担をかけすぎないように取り組んでいる		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔を維持する為にチェック表を活用しながらお一人お一人の希望に沿って入浴を提供している。また、入浴時には入浴剤やを入れたり、音楽を流して楽しめるようにしている	日中の時間帯であれば、本人の希望の時間や順番で入浴してもらっている。入浴時は、本人の好みで脱衣場で民謡を流したり、銭湯にお連れして入浴を楽しめるように支援している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアや廊下にお一人でも休める椅子を設置している。常に清潔な寝具を使用している。不眠時にはゆっくりとお話を聴く体制をとっている		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について目的や副作用についての勉強会を行っている。服用時の薬袋にも薬名を明記している。服薬マニュアルを作成し全員が把握している。主治医との連携を密にとり、必要に応じ薬の形態を変更し、内服しやすいよう支援している		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時にその方の生活歴をお聞きし、日頃からのコミュニケーションを通し楽しみごとを把握し、張りのある生活が送れるよう支援している		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に行って頂いている。個別ケアとしてご本人様のご希望の場所へ出かけられるよう、家族様と話し合っている	散歩や1日1回の外気浴(敷地内)や本人の好みの外出(買い物・外食・銭湯)を介護計画に位置づけている。家族と相談しながら、衣替えのために自宅に帰ったり、お墓参りが出来るように支援している。	外出が困難な利用者も庭で外気浴を楽しめるよう、庭の整備をされて活用されては如何でしょう。

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売や買い物などで、その方に応じた支援を行っている		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に沿いながら行っている		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアの壁飾りを通し、季節感を取り入れている。台所、食堂、トイレは清潔を心がけ、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「環境生活向上委員会」の担当職員が中心になり、季節を感じて頂けるように花を生けたり、アロマなどで癒しの空間づくりの工夫をしている。庭園やベランダでは、季節の花や野菜を栽培して、水やりを協働している。	生活支援・自立支援の実践として、利用者と協働して清掃にも取り組まれたら如何でしょう。
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室を利用し居心地よく過ごせるような空間を作っている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みのものを飾れるよう工夫している	入居時に家族と相談しながら使い慣れた家具や馴染みの品を持ちこんで頂いている。外出時の写真や自己作品も飾ってもらっている。服の選択がし易いようにADL状況に配慮してパイプハンガーも設置している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	清潔で整理された環境を整え、入居者様が主体となり生活できるように心がけている。必要な場合にはトイレの掲示を行うなど工夫している		